

県警マスコット・ゆっぴーくんも園児たちを優しく見守ります



親子で学ぼう交通ルール

若葉保育園親子交通教室

若葉保育園(江原澄恵園長、128人)の親子交通教室が5月15日、町スポーツセンターで行われ、園児と保護者が参加して交通意識を高めました。交通教室は町内の保育園や小中学校で実施されています。同園は毎年、お見知り会にあわせて親子参加で実施。会場では御船警察署や交通指導員の指導を受けながら、信号機などを設置し実際に親子で歩いたり、県警マスコットゆっぴーくんと一緒に楽しく交通ルールを学びました。また、時速5kmの衝撃を体感できるコーナーでは、あらためてシートベルトの必要性を実感していました。

中学生らしさ青春全開

第59回御船中体育大会

5月26日、御船中学校(加藤敬之校長、496人)で体育大会が開催されました。今年は「疾風～駆け抜ける仲間とともに～」を大会スローガンに掲げて、5つの団にわかれ白熱した競技が繰り広げられました。競技は100m～1,500m走や学年別リレーなど全24種目。自慢の健脚を競い合い、声を張り上げて仲間を応援する中学生らしい姿が印象に残った今大会で、観客を魅了したのが3年女子の「よさこいソーラン」。息のあった可憐な舞いがパーフェクトに披露されると、客席からひととき大きな拍手が送られていました。



弾ける笑顔で完璧な演技を披露した3年女子「よさこいソーラン」



吉無田高原の頂上付近から一気に滑り降りる草スキーはスリル満点

連休中の吉無田に3,200人

吉無田高原「草スキー大会」

行楽スポットでお馴染みの田代地区の吉無田高原「緑の村」で5月3日、草スキー大会が開催され、町内外から多くの家族連れでにぎわいました。今年も大型連休中には期間限定このぼりが吉無田の天空を優雅に泳ぎまわり、観光客を手厚く歓迎。メインイベントの草スキー大会は小学低学年や高学年、親子の部の3部門で行われ、芝の急斜面を巧みなソリさばきで爽快に滑り降りていました。また、草スキー大会と並行して行われた町竹振興会(野口一敏会長)の竹細工教室もちびっ子たちに大人気で、一輪挿しや竹とんぼ、水鉄砲づくりを楽しみました。連休中は晴天にも恵まれて、4月29日から5月5日までの期間、同高原には草スキーやキャンプで約3,200人が訪れました。

一年ぶりに帰ってきた幻の滝

第22回ふるさと滝まつり

七滝ふるさと滝まつり(七滝観光推進委員会主催)が5月9日、七滝神社周辺で開催され、普段は枯れている七滝が1年ぶりに勇姿を現しました。七滝は、水流の侵食によってできた7段の岩からなる落差約40mの名滝として知られています。昭和12年以降、上流にできた水力発電所への取水で、水流のない幻の滝となっていました。地域住民の要望で、平成元年から滝まつりにあわせて、年に一度だけ放流が行われています。午前10時30分の放流には、滝つぼに約100人の見物客たちが周辺をうめつくし、豪快な瀑布に歓声を上げていました。近くに住む島田ヒロエさん(七滝)は、「勇壮な滝のしづきに感動しました」と感慨深く話していました。滝まつりでは、太鼓や大道芸などもあって終日にぎわっていました。



多くの見物客が訪れて一年ぶりに勇姿を現した七滝

藍液の入ったポリバケツでTシャツなどを染色する児童たち



オンリーワンの藍染に挑戦

滝尾小藍染教室

5月21日、滝尾小学校(沼田義雄校長、110人)で全校児童を対象に藍染教室が行われました。これは同小PTA母親部が地域交流を目的に開き、今年で10回目。作業は、インド藍顆粒やソーダ灰、水などを調合した藍液に、児童が持参したTシャツやタオルなどを染色後、水で洗い流します。その後、水を絞って、教室のベランダで天日干ししたら完成です。3年生の渡邊陸くん(滝尾)は「(藍染で)できたTシャツを着て学校へ登校したいです」と世界に二つとないオンリーワンTシャツの完成に笑みをこぼしました。

心ひとつに飛んで記録更新

七滝中央小で長なわとび挑戦

七滝中央小学校(村上孝利校長、61人)で5月21日、RKK熊本放送「夕方いちばん」の小学校対抗長なわとび選手権に5・6年児童20人が挑戦しました。同選手権は、県内の小学校を対象に児童20人以上で長なわとびに挑戦して、年度チャンピオンを決める人気番組。同小は昨年度に引き続き2回目の挑戦です。下級生児童や保護者、先生の大応援団がステージから見守るなか、2回目の挑戦で84回を記録。この時点で高浜小学校(天草市)の58回を抜いて暫定首位を獲得して、最高の結果を残して笑顔の収録を終えました。



緊張のためか1回目は40回と記録が伸びなかったものの、2回目は自己記録を更新する84回のジャンプを見せた5・6年児童20人